**アンケート・ピックアップ**

**10月20日　株式会社　オプティワ　代表取締役　 岩越　尚樹　氏**

**問１　学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ**

様々なStart-upsを見てきた岩越さんの経験がいろいろと伝わってくる講義でした。例えばオフィスの様子を見ただけで会社の状況がわかるというのは経験ゆえだと思いました。また、日本とアメリカでのベンチャー、start-upsにおける様々な考え方の違いにも驚きました。創設者ですらあっという間に切られるという世界はリスクがあるように感じました。ただ、アメリカのプロフェッショナル化の考え方のほうが効率がよく、企業としては強くなれるのかなと思います。技術者には技術者としての強さ、経営者には経営者の強さを出させる仕組みがある会社こそが今後を担うと思いました。(経営・経営1年)

今回のお話を聞いて、言語や文化の違いはもちろんですが、日米間のビジネスへの考え方の違いを痛感しました。一番根本にある米の「早急な実績」「ローリターンの投資をしない」という考えと、日本の「信頼と安定」という考えだと思います。経営者と技術者と完全に分担するというものは非常に効率的ではあるのですが、日本にはそこまで浸透していないように感じます。みんなで協力するという文化のある日本においては、完全分業は肌に合わないのかもしれません。また、経営者の資質は事業規模によって異なるという話もありましたが、日本には小規模事業で細かいところに目が届く経営者が多い気がします。私が典型的な日本人であり、度のつくおせっかいだからです。志のある若い人がベンチャーを起業するときの支援は増えてほしいとは思いますし、そういった仕事をしたいと考えていますが、単に真似るだけでは決してよくないと思いました。（経営・経営・１年）

今日は普段の講義よりもたくさんの身になることがあった。特にアメリカの経営事情の細かい点まで説明してくださって、はじめて知ることばかりだった。日本のことを知ることも大切だけれども、世界のことは日本と全く異なる点もあるのでもっと勉強するべきだと感じた。会社の倒産や買収などについてはあまり授業で触れられないからリアルなことが聞けてよかった。特に追加投資なしであと何ヵ月残存可？の話の会社が今どんな状態にあるかを判断する方法がとても興味深かった。企業の寿命は短いなぁと感じた。何十年も続いている企業は本当にすごいんだなぁと思った。自分が考えているよりも遥かに企業を経営するのが難しいと言うことがよくわかった。(経営学部国際経営学科1年)

アメリカの企業の話が全体で前回とは全く違った雰囲気の内容がとても新鮮でした。特に興味深かったのは、アメリカにおける金の流れの速さや決断の速さです。さすが資本主義の主導国だけあって、企業の淘汰は激しいと思いました。しかし、ベンチャー企業に対し銀行が全く融資を行わないなど激しい面があるにしても、アメリカの柔軟性や流動性は非常に学ぶべきところが多かったです。（経営・経営１年）

今回岩越さんの話を聞いて、企業が生き残るのは本当に厳しいということを再認識した。いくら設備にお金をかけて技術をもっていたとしても資金源が見つからなかったりして経営がうまくいかなければ大失敗してしまうことが分かり、現実の厳しさを感じた。一方でそのような失敗した企業の設備を狙っている企業もあると知り、なかなかおもしろいと思った。（経営・経営１年）

自分の中で「社長＝一番すごい人・偉い人」というイメージが強かったのですが、社長として活躍している人は、その仕事が得意な人なのだという認識に変化しました。自分がどんなレベルのことが苦手で得意なのか、それを把握していないままだと自分の持っている力が発揮できないままになってしまうのかと思うと少し怖いなと感じました。（経営・会計情報・1年）

カネという有形物を動かのなは結局ヒトであって、そのヒトを動かすのは無形であるココロだということに皮肉のような何かを感じた。当然、岩越さんが仰っていたリターン・リスクを想定しての投資がベースとなるが、ヒトを動かす何かを持つ必要があると思った。経営者の代表すら代替を基本とする外部社長のシステムは現代社会の表れであると感じた。その点は非常に面白い。投資の考え方とシステムはギャンブルに計算の要素を加えたゲームに相違なく、投資する側は投資企業の背景を読む必要があって、投資させる側は理性にプラスして投資家の感性に訴えるものが必要だと思った。（経営・経営1年）

日本でこのような授業を受けているとなかなか海外のベンチャーの事情を知ることができないのでとても勉強になりました。アメリカには日本のようにベンチャー企業にお金を貸してくれる銀行はなく、会社がなくなるときも借金はなくもらったお金をすべて使い果たして終わるというのがとても興味深かった。また、シリコンバレーにベンチャー系の会社が多い理由にとても納得できました。さらに今回の講義の中で登場したいろいろな外国人が１つの会社を首になったら、また違う会社についていて、その部分にも日本との違いを感じました。（経営学部・経営学科・１年）

　アメリカのstart-upsについて自分が知らないようなお話をたくさん聞くことが出来て良かったです。アメリカというのはこんなにもシビアな国だとは思っておらず、VCの投資が便りで、さらにその投資もRound Cまでいくと、創設者ですら解雇されてしまうということは、日本では聞いたことがなかったので驚きでした。シリコンバレーは、厳しいほどの競争があるからこそ、第一線としていられるのだなと感じました。（経営学部・国際経営学科・１年）

 　今日の講義は経営の知識やアメリカと日本の経営の違いを意識された授業でした。アメリカのベンチャーキャピタルはとてもクールで生き残れなさそうな企業はすぐに見捨てるのにたいし、日本のVCルは臭いものに蓋をするなど全く別なんだなぁと思いました。光関係のベンチャー企業でも800社あったのが何年後かには100社に減るなど、やはりベンチャーは成功させ、リターンを得るまで成長するのはとても難しいのだと再確認しました。 ベンチャー企業が安く買い叩かれ、大企業に食われるという話は面白かったです。起業すべきかどうかは置いといて、買収されてヘッドハンティングされるか、実績を作らず企業をclose the doorしてしまうのかの2択が大きいと思いました。(経営　国際経営1年)

アメリカのstart-upsの厳しい一面（特にVC）のお話を伺い、改めて日本型経営について考えるきっかけになった。どちらかが優れているわけではなく、企業がグローバルに活動する現在、二国間の溝を埋めるオプティワさんのような存在は不可欠だということが分かった。（経営学部・経営学科1年）

アメリカのスタートアップ企業がどのような仕組みで成り立っているかをよく知ることが出来ました。アメリカで生き残っていくには、日本よりもシビアである印象を受けました。自分は将来技術職につこうと考えているので「単一の技術だけで生き残るのは難しい」など、いろいろ勉強になりました。日本で有名な経営者は京セラの稲盛さんなど技術者から経営者のイメージがあったので、アメリカでは経営者はヘッドハンティングしてくることに驚きました。（理工学部電情学科3年）

**問２　今後のアクションに繋げていきたいこと**

ある種、自分のプロフェッショナル性を身に着けたいと思いました。幅広い知識に加えて何か自分の武器を一つはしっかり用意していきたいです。（経営・経営・1年）

　僕はメガフロート（海上に浮かぶ人口島）を用いた事業を起こしたいと考えていますが、商売の面に関して真剣に考えたことがあまりなかったので、その点に関してよく考えようと思います。そういったノウハウを学ぶためにもまずは海洋工学の分野の企業に就職したいと思います。その為にも今は専攻の分野の勉強に尽力します。（理工・建築都市、環境系・３年）

　ケーススタディの問いに、自分なりにうまく答えを出すということが出来ず、能力不足や背景知識の不足を感じたため、ビジネス用語や専門知識を積極的に学んでいこうと思います。（経営・国際経営１年）

海外で事業を起こすことに憧れを感じる。コミュニケーションをとるためには英語を使いこなすことが必要不可欠なことである。普段の英語の学習により一層力を入れていきたいと私は最近思っている。（特にリスニング力とスピーキングを向上させたいと思っている。（理工学部　数物　電子情報系1年）

何もしないと会社は維持費などでどんどんと無くなってしまう。これから自分達もなにも行動を起こしたり、やりたいことをやっていかないと自分として何か失ってしまうように感じた。今後は未来への展望をたてながら先をみて学びを続けていきたい。Start-up企業は知られていなくてもとても多くの数があると思うので、どのような企業が成功しているのを調べてみる。（経営・経営システム１年）

**授業スタッフの感想１**

　起業や日本のベンチャー企業の特徴を学ぶことが多いこの講義で、海外のstart-upsについて学べる機会は初めてだったという声が多かった。今回の講義を通して私たちはもっと視野を広げて企業について学ぶべきだと感じた。